

第1回トドマツ人工林更新技術検討会 議事概要

◆場所：北海道森林管理局 大会議室

◆日時：2014年8月5日 14：00～16：00

◆出席者：別紙のとおり

◆配布資料：別紙のとおり

◆意見交換において出された意見

■検討対象地域について

- 検討対象地域としてミヤコザサ地域が最適と考えるが、高さ75cm未満のクマイザサ地域についても適性を検討したほうがいい。
- トドマツ人工林は全道に分布しているので、簡易な手法でよいので、全道の更新状況を調査してほしい。
- 多雪地域でも更新ある場所があるので、事業の今後の発展を踏まえると、クマイザサ地域までは検討対象にすることを考えたらい。
- 十勝の内陸部や北見方面で更新が良好な場所があるため、クマイザサ地域であっても可能性ある場所はある。

■実証試験の手法について

- 機械を使って「列状間伐」や「定性間伐」をすれば地表が攪乱されるので、トドマツ種子の豊作年に合わせてやればよい。
- 乾燥した暑い夏の翌年は、豊作年になりやすいのは経験則としてある。また、種子の発芽力は何年も維持されることはないので、散布前に地表攪乱をしないと有効でない。
- 通常の施業のなかで豊作年に当たることを待つか、気象条件等から豊作年を予測する技術が確立できてから、散布される前の秋に地表処理することがよい。
- 「掻き起し+列状間伐」や「掻き起し+定性間伐」の組み合わせは考えていないのか。間伐した場所を掻き起ししてみるほうが現実的で比較検討にもよいと思う。
- 明るい条件を作り、高茎草本が繁茂する場合に下刈りすることが有効かもしれない。また、上木を開ける時期を考慮する必要があるのではないか。

■目標樹種について

- 目標樹種は基本的にトドマツだけだが、天然更新ではトドマツだけに特定するのは難しく、広葉樹も交じる林になる可能性が高い。
- 針葉樹と広葉樹が混交する場合は、広葉樹が成長早いので上に行くが、トドマツは枯死することはあまりなく、下で待機している。長い期間で考えれば、トドマツが更新してくるので、そのまま混交させていけばよい。

■その他

- 更新が少ない場合、積極的に更新を促すことを考えるのか。現実的なところでできることを考えるべき。事業としてできないのであれば試験してもしょうがない。例えば、間伐実施後にグラップルで地表処理をしてみる程度なら現実的な設定になる。